

社会福祉法人 東京援護協会



東援だより 第27号

理 念

私達は、高い志を持ち、時代の要請に基づき先駆的に社会福祉の充実を図るため、活力のある経営を行って、社会福祉法人としての責任を果たし、社会に貢献してまいります。



自立支援センター
豊島寮
(ホームレス対策事業)

も く じ

- 評議員あいさつ 2
- 大特集 周年記念 3
- 上半期法人施設公開行事日程 6
- 平成27年度表彰 7

社会福祉法の改正

理事長 山口 桂造



社会福祉法が改正されました。改正の理由は、社会福祉法人に対する次のような批判に対処するためです。

「福祉事業の実施主体は、株式会社、NPO法人等
沢山あるが、社会福祉法人だけが税の優遇措置を受けているのは不平等だ」「特別養護老人ホーム1施設当たり3億円を超える内部留保金があるのは、公益性、非営利性を旨とする法人としてはおかしい」

これらの批判には、一部誤解によるものもありますが、法人の襟を正すために改正が行われたものです。

改正の主なものを二つ紹介します。
一つは、社会貢献の強化です。社会福祉法人は、他のいかなる団体にも増して社会に貢献するものでなければなりません。

改正法は、社会貢献に資する公益事業として、全法人が自主財源を使って行わなければならない「公益的な取り組み」と、余裕財産を有する法人が行う「地域公益事業」の2種の事業を設定し、実施するよう規定しました。

これを受けて、東京都社会福祉協議会は、この2種の事業をまとめて「地域公益活動」と表現し、まず各法人が自主財源を使って独自に地域公益活動を実施し、次に各法人が負担金を拠出して基金を設置し、それを財源として広域的な公益活動を行うという計画を立てました。私共はこの計画に積極的に参画いたします。

二つは、経営組織のガバナンスの強化です。法人の運営が独善的、恣意的にならないよう、理事会と評議員会の役割を大きく変えました。これまでは理事会が法人の中核機関でしたが、その上位に評議員会を位置づけ、法人全体の見張り役としたのです。

東京援護協会は、今回の改正を真摯に受け止め、これまで以上に社会に貢献し、利用者の皆様に喜んでもらえる法人を目指してまいります。



セーフティ・ネット

東京援護協会 監事 橋本和夫



東京援護協会の職員の皆様、日頃のご活躍に心より感謝申し上げます。私は昨年9月より監事を拝命しました橋本和夫です。

私ごとで恐縮ですが、義父母は、現在介護付有料老人ホームに入所して3年になります。義父は98歳、義母は88歳になります。義母は4年前、買い物途中で重い荷物を持ったまま転倒し、大腿骨骨頭骨折し救急車で入院。手術後はリハビリテーション病院に転院しました。義父は義母入院直後に頸椎圧迫障害で倒れ、やはり入院を余儀なくされました。1か月ばかりの入院でしたが、3人の子供はそれぞれ所帯を構え二人暮らしでしたので、病院のケアマネージャーの計らいで近くの介護付有料老人ホームに入所しました。義母はその頃より認知症が始まり、やむ無く兩人共、我が家の近くの介護付き老人ホームに入所し現在

に至っています。ホームの職員の皆様の昼夜を問わない真摯な介護に、安心してお任せしています。認知症の義母は入浴、リハビリテーション時には反抗し、時には怒るといった状態で職員の方のストレスは並大抵のものではないと感じております。義父母は幸いにして有料老人ホームに入所いたしました。これも叶わない方々は増加する一方と聞き及んでおります。

東京援護協会の会議で皆様からの現況報告を伺う度に、二人の状態が思い出され、皆様のご苦労が偲ばれます。協会では介護事業のみならず障害者支援、就労支援など幅広い福祉事業を行っていますが、それぞれの施設で厳格な規範のもとに努力して働かれています。と思います。

憲法の言う国民の「基本的人権」「幸福追求の権利」「法の下での平等」「生存権」は国の義務であり、社会福祉法人はその一翼を担っています。昨今いわれている市場経済の行き過ぎによる格差の拡大は、社会的弱者に大きな負荷を掛けています。その荷重で落下した時の安全網、セーフティ・ネットが社会福祉の要諦です。社会福祉法人には「非営利」と優れた「公益性」が要求されていますが、それを事業の中心としている東京援護協会の重要性は益々増大していくことと思います。職員の皆様にはお身体に気を付けて社会福祉の発展のためご活躍されることを祈念申し上げます。

中野寮閉所から 豊島寮開設にあたり

施設長 田島信幸

各区5年間の持ち回り事業としてスタートした自立支援センター中野寮が平成28年3月22日で閉寮となりました。

次の施設は豊島区となり平成28年3月23日自立支援センター豊島寮が開設いたしました。

今度の豊島寮は、JR池袋駅から徒歩15分位の場所にあり、豊島区でも古い「平和通り商店街」を通り抜けた川越街道沿い右側にあります。

路上生活者対策事業の目的は、一人でも多く地域社会での自立を図る事です。

そのため、豊島寮でも地域への安心・安全な施設運営に努めながら、一層の「自立率の向上」を最重要目標に職員一致団結して事業に取り組んでまいります。

祝 **50**周年

町 **田** **荘**

町田荘 沿革

- 昭和 41年 5月 重度身体障害者授産施設として開設
- 平成 3年 3月 町田地区複合施設竣工
(サルビア荘開設と町田荘一部改築)
- 平成 7年 9月 老朽化施設改築工事竣工
- 平成 7年 9月 身体障害者短期入所(町田市から受託)
- 平成 11年 3月 事業を実施
- 平成 23年 4月 障害者自立支援法体系に事業移行
(施設入所支援・生活介護・短期入所)



昭和41(1966)年5月、山口栄次郎初代理事長を施設長に、町田荘は定員32名、職員13名で事業開始しました。東京都初の重度身体障害者授産施設です。その後増築工事を行い現在と同じ定員50名になり、平成7(1995)年には老朽化した施設を改築して、ほぼ現在の建物となりました。また、平成23(2011)年4月、一部増築して障害者自立支援法の事業体系に移行し、主として身体障害者対象の障害者支援施設として、障害者総合支援法の生活介護、施設入所支援及び短期入所(空床利用型)事業を実施してい

「町田荘」は、今年5月に創立50周年を迎えます。「社会福祉法人 東京援護協会」の歴史のある施設です。
当法人は昭和27年5月に社会福祉法人となりましたが、台東区で生活困窮者への食事供与などしながら「財団法人 東京援護協会」が昭和24年に設立されています。法人創立10周年記念事業として、昭和34年町田市に、今でもタヌキが出没する土地を取得し、そこに町田荘は建設されました。



ます。
今回この記念すべき年にあたり、これまでご支援くださいました皆様に感謝し、ささやかでも何らかの記念事業を行なう予定で準備を進めています。また、改めて町田荘の将来構想も含めて事業や施設の整備に向けて検討しています。利用者・職員・関係の皆様が明るく元気で快適と感じられる施設であるよう、地域に開かれた伝統あるより素晴らしい施設であるよう、この機会に心をひとつにして新たな道を踏み出したいと念じております

祝 **30**周年

高 島 平 福 祉 園

板橋区立高島平福祉園 沿革

- 昭和61年 6月25日 高島平福祉園板橋区より
受託・開園
- 平成13年 4月 1日 高島平福祉園分場開園
- 平成19年 4月 1日 板橋区立障がい者福祉センター
指定管理者として運営開始
- 平成28年 4月 1日 板橋区立障がい者福祉センター
基幹型相談支援センター
事業開始
- 平成28年 6月25日 高島平福祉園30周年



高島平福祉園開園式
山口桂造理事長挨拶

高島平は昔「徳丸ヶ原」と呼ばれ水田が広がっていました。ここで江戸時代に高島秋帆が砲術訓練を行ったことが高島平の地名の由来です。緑道や公園が多く、四季折々の散策を楽しむことができます。

この高島平の地に昭和61年 板橋区立高島平福祉園は開園しました。当初より施設公開行事や町会との合同納涼祭等で地域交流をはかってまいりました。

平成13年には高島平福祉園分場の開園、平成19年から併設の板橋区立障がい者福祉センターを指定管理者として運営、平成28年度から基幹型相談支援センター事業の開始と事業の拡大しております。

利用者の皆様が必要に必要に、必要な支援を受けることができよう、今後もより質の高い支援サービスの提供をしてまいります。



高島平福祉園 初めての行事「納涼会」

当時の職員からのコメント

小豆沢福祉園 係長 松本忠彦

開園当時を振り返りますと、昨日のことのように思い出されます。職員一人ひとりが「福祉」とは何か、障がいのある方の「幸せ」とは何か、「何ができるのか」を悩み、もがきながらも、日々、議論を交わし、週末には朝まで語り合ったことがありました。

余談ではありますが、事業計画の作成時にあたっては、一言一句にこだわりを持ち、締切日ギリギリまで職員と議論を交わし、時には会議が紛糾しながらも、ひとつにまとめ作り上げたことをなつかしく思います。

「障がいのある方と共に歩む」中で、人と人がぶつかり合い、心と心がぶつかり合いながら、それぞれの思いを感じ、理解し合いながら、新たな出会いと発見を繰り返して、今日の原動力となつていくことをあらためて感じます。

時代の流れと共に、社会経済と福祉は変革し、日々、翻弄されながらも、高島平福祉園開園当時の思いは、私自身の中の原点として、持ち続けてまいります。

祝 30周年

関町福祉園

練馬区立関町福祉園 沿革

- 昭和 61年 4月 氷川台生活実習所に続いて練馬区で2番目の生活実習所として開所。
- 平成 7年 4月 知的障害者福祉法による「知的障害者更生施設(通所)」となる。「関町福祉園」と改称する。
- 平成 21年 4月 障害者自立支援法による「生活介護事業」となる。
- 平成 22年 4月 社会福祉法人「東京援護協会」が区から指定管理委託を受け運営を開始。
- 平成 22年 10月 選択行事を新たに実施。利用者の希望をとり、個々のニーズに合ったプログラムを提供。
- 12月 関町小学校交流会を始める。
- 平成 23年 4月 作業活動として新たに石けん、農園作業を開始。



建設中 (S61年)



現在 (H28年)

平成28年4月に練馬区立関町福祉園が開設30周年をむかえます。練馬区から当法人に委託を受け、繋いできた30年の歴史を紹介させていただきます。

練馬区立関町福祉園は、東京都練馬区の南西部にあって、武蔵野市、西東京市との区市境に近い位置にあります。

昭和61年4月に練馬区で二番目の生活実習所として開所した、知的障害者の通所施設です。その後「福祉園」と名称が変わり、平成22年4月からは、当法人が指定管理者として受諾し運営をしています。

それまで東京都の施設であった生活実習所が練馬区に移管されてから、初めて作った生活実習所であり、定員30名でスタートしました。その中で通園バスを民間の会社に委託した事や、当時主流であった、10時の支援開始時間を30分早め9時30分になったことは画期的でありました。当時、他施設は通園バスが直営であったため、職員が8時半に出動してからバスが発送していました。9時30分からの支援はバスを民間に委託することにより可能になったのです。

現在も当時の面影を残しながら30年という時間を積み重ねてきた関町福祉園。31年目も、またこれからも利用者の笑顔と一緒に素敵な時間を積み重ねていきたいと思っております。

OB・OG職員からのコメント

関町福祉園(当時生活実習所)は、利用者15名(男12名女3名)、支援職員5名(男2名、女3名)看護師、事務、用務、所長、副所長が各1名ずつでスタートしました。

練馬区に土地を提供してくれた農家のKさんが園を囲む自分の畑を耕しながら、収穫した作物を、園庭でやはり小さな畑(支援用)をねじり鉢巻きで一生涯命耕している所長に「給食に使って。」と手渡す姿が印象に残っています。

「新しい事をやりたいね」と話しながらも、散歩の日々に焦りを感じたことを昨日のように思い出します。利用者さんも職員も、そして地域の方も、手探りで始まった「地域生活」だったと思います。

最後になりましたが、30周年おめでとうございます。

大橋 径一さんより

元気グループで車イス利用の方も含めて、リヤカーひいての牛乳パック回収作業をしていました。働いて働いて稼いでおいしいものを食べました。また、暑い日も寒い日も風の日も、たくさんたくさん散歩をしました。善福寺公園や井の頭公園まで、とても行動範囲が広がったです。宿泊旅行もスキー、デイスノーランド内ランニング、灯台上り下りなど、とにかく動いて動いて...身体と心でぶつかりあった日々はとても楽しい思い出です。

深井敦さん・岡田弘さん・山本史朗さん・池上(当時松本)智子さんより

東京援護協会後援会からのお知らせ

東京援護協会後援会 会長 森田 浩一郎

後援会会員の皆様には、何かとご支援、ご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。
平成27年度の加入状況、及び収支の状況をご報告いたします。
平成28年度も引き続きご入会いただけますよう、お願い申し上げます。

平成27年度収支報告 (単位：円)

収入の部		支出の部	
前期繰越金	5,866,494	会費振込手数料	12,470
会費収入	961,000	事務費	63,584
受取利息	1,471	次期繰越金	6,752,911
合計	6,828,965	合計	6,828,965

平成27年度会員及び会費の状況

内訳	件数	口数	会費(円)
個人会員	57	153.0	306,000円
法人・団体会員	46	65.5	655,000円
合計	103	218.5	961,000円

平成28年度後援会への入会のお願い

個人会員	1口(年会費2千円より)
法人・団体会員	1口(年会費1万円より)
郵便振替口座	・口座記号 001006 ・口座番号 545107 ・口座名義 東京援護協会後援会

施設長人事

新任施設長 サルビア荘 高橋 良彰
退任施設長 サルビア荘 泉川 満

平成28年度 上半期 法人施設公開行事日程 及び 地域交流行事一覧

施設名	行事名	月 日	時間帯	内 容
目黒区東が丘障害福祉施設・東が丘荘合同	あじさいまつり	6月4日(土)	10:00~14:30	地域の小学校等参加の地域交流イベント(模擬店多数、プラスバンド等多数)
大泉障害者支援ホーム	ボランティア入門講座	6月予定	未定	ボランティア活動に興味のある方、希望の方を対象に施設や活動内容のご案内。
田柄福祉園	ひまわりフェスタ(納涼祭り)	7月9日(土)	17:00~19:00	地域交流行事・福祉園バザー・模擬店・イベント等
蓮根高齢者在宅サービスセンター	夏祭り	7月予定	11:00~15:00	地域交流行事(アトラクション、喫茶コーナー、ケーキお菓子販売など)
練馬区立関町福祉園	納涼会	7月16日(土)	17:00~19:30	地域交流行事(各施設の自主生産品出店、模擬店、コンサート、ゲーム等)
小豆沢福祉園	夏祭り	7月30日(土)	10:30~14:30	地域交流行事、盆踊り・太鼓・模擬店・作業作品販売など各コーナーあり。
高島平福祉園	納涼祭	7月下旬(金)予定	18:30~21:00	地域交流行事(盆踊り・自主製品販売・模擬店コーナー等)
町田荘・サルビア荘合同	納涼祭	8月頃(土)	17:30~19:30	納涼祭を通して、施設利用者と家族、地域住民並びにボランティアとの連携交流。
前野福祉園	納涼祭	8月中旬(土)	18:00~21:00	地域交流行事として前野4丁目町会と合同で開催。
三園福祉園	納涼祭り	8月20日(土)	17:00~19:00(予定)	自主生産品販売・模擬店・その他イベントも予定。
大泉障害者支援ホーム	ふれEYEまつり	10月予定	未定	施設紹介、各施設の自主生産品販売、模擬店、各種アトラクション等。
練馬障害者支援ホーム	ふれあい秋まつり(仮称)	10月予定	未定	施設交流・地域顔会行事。自主生産品販売、模擬店、体験コーナー、クラブ発表会等。
蓮根福祉園	れんこんまつり	10月8日(土)	未定	地域交流行事として地域団体の協力を得て開催。自主製品販売・模擬店など
いずみの苑・蓮根高齢者在宅サービスセンター合同	いずみ祭	10月下旬(日)予定	10:00~15:00	施設公開行事 バザー・模擬店・アトラクションなど

**11月21日(土)に
田柄福祉園ではじめての
「施設公開」を行いました!!**

田柄福祉園 生活支援員 喜志麻拓大

11月21日(土)に田柄福祉園で初の「施設公開」が行われました。当日は天候にも恵まれ、50名近くの方が来園されました。福祉園の活動を知っていただけるように、カラオケ、創作、魚釣りゲーム、アルミ缶つぶし、クッキングなど普段人気の活動内容を行いました。

パソコン活動で行ったことのある「ちゃんりおメーカー」というキャラクター作りを体験できるコーナーを設置したところ、世界に一つご自身のキャラクターを作ろうと長い列ができ好評でした。

夏から育てて収穫した赤トウガラシの販売は早々に完売となり、来年の園芸活動の励みとなりました。



寿作品展示会

特別養護老人ホーム蔵前介護係 加藤茜澄

特別養護老人ホーム蔵前の地元である台東区では、毎年10月頃、区役所で「寿作品展示会」が開催されます。

『寿作品展示会』では、台東区内の高齢者の絵画・書道・手芸・陶芸・俳句等の作品や小学生・こども園児・幼稚園児の絵画・貼り絵等の様々な作品が展示されます。

昨年の展示会に、特養蔵前に入所している方々とデイサービスの利用者の方々も作品を展示しました。中でも「お月見をしているウサギ」は好評を博しました。この絵はちぎり絵で、特養入所者とデイサービス利用者が共同して製作したものです。見る人に、ほのぼのとした暖かさがたくさん伝わってくる素晴らしい作品だと思います。

そして、この共同制作を通して普段あまり交流することのない特養入所者とデイサービス利用者が楽しく交流出来たことは、とても良かったと思います。これからも、作品製作のお手伝いを一生懸命していくつもりです。



平成27年度表彰者

平成27年度
全国社会福祉大会 会長表彰

小池睦美 前野高齢者在宅サービスセンター

第64回
東京都社会福祉大会社会福祉施設功労者

中山真知子 高島平福祉園

桐生瑞代 蓮根福祉園

松本忠彦 板橋区立障がい者福祉センター

大野陽 前野高齢者在宅サービスセンター

第64回
東社協社会福祉施設・団体永年勤続功績者

塩見秀樹 目黒区東が丘障害福祉施設
(東が丘あじさいホーム)

小林裕子 東京都練馬障害者支援ホーム

中村博志 練馬区中途障害者通所事業

大野高範 練馬区中途障害者通所事業

岸 孝治 町田荘

有馬哲子 大泉障害者支援ホーム

濱端充代子 大泉障害者支援ホーム

大野陽 前野高齢者在宅サービスセンター

第11回

東京都福祉保健医療学会福祉分野 優秀賞

妹尾浩一 練馬区中途障害者通所事業



法人の徽章

○徽章の理念は『平等』を現しています。
 ○上半分は『太陽』を、下半分は『海』を意味しています。
 『太陽』は生きる者全てに、わけ隔てなく光を与え育みます。そして人への愛、温もり、笑顔などのイメージが広がります。『海』は、地球上のあらゆる生物を産み、暖かく育ててくれた場です。
 ○『太陽』と『海』の存在が、平等を実現しています。

社会福祉法人東京援護協会施設一覧

〒101-0044

法人本部

千代田区鍛冶町 1-8-5 新神田ビル2階
 TEL : 03-3256-4711

施設(事業)名	住所
町田荘 施設入所支援事業 生活介護事業 短期入所事業(空床利用型)	〒194-0203 町田市園師町 2987 TEL : 042-791-0905
サルビア荘 特別養護老人ホーム 短期入所生活介護事業 指定居宅介護支援事業 通所介護事業	〒194-0203 町田市園師町 2987 TEL : 042-794-0333
東京都練馬障害者支援ホーム 施設入所支援事業 生活介護事業 自立訓練(機能訓練)事業 短期入所事業(空床利用型)	〒178-0065 練馬区西大泉 5-36-2 TEL : 03-3925-0088
練馬区立心身障害者福祉センター 練馬区中途障害者通所事業 自立訓練(機能訓練) 自立訓練(生活訓練) 地域活動支援センター	〒176-0021 練馬区貫井 1-9-1 TEL : 03-3926-7214
高島平福祉園 生活介護事業 就労継続支援B型事業	
板橋区立障がい者福祉センター 地域活動支援センター (地域活動支援センター事業) (セミナー事業) (施設利用) 指定相談支援事業	〒175-0082 板橋区高島平 9-25-12 TEL : 03-3550-3403
高島平福祉園分場 就労継続支援B型事業	〒175-0082 板橋区高島平 9-1-8-201 TEL : 03-5399-7170
蓮根福祉園 就労継続支援B型事業	〒174-0043 板橋区坂下 2-8-1-101 TEL : 03-5392-0761
前野福祉園 就労継続支援B型事業	〒174-0063 板橋区前野町 4-16-1 TEL : 03-5392-8731
前野高齢者在宅サービスセンター 通所介護事業 指定居宅介護支援事業	
特別養護老人ホームいずみの苑 短期入所生活介護事業 通所介護事業 指定居宅介護支援事業 訪問介護事業 地域包括支援センター	〒174-0042 板橋区東坂下 2-2-22 TEL : 03-5970-9101
蓮根高齢者在宅サービスセンター 通所介護事業	〒174-0046 板橋区蓮根 2-28-2 TEL : 03-5994-1111

施設(事業)名	住所
小豆沢福祉園 生活介護事業	〒174-0042 板橋区東坂下 1-4-9 TEL : 03-3969-5131
ケアハウス松が谷 軽費老人ホーム 通所介護事業 指定居宅介護支援事業 地域包括支援センター	〒111-0036 台東区松が谷 4-4-3 TEL : 03-3845-6501
特別養護老人ホーム蔵前 通所介護事業 指定居宅介護支援事業 地域包括支援センター	〒111-0051 台東区蔵前 2-11-7 TEL : 03-3862-3033 〒111-0051 台東区蔵前 2-11-3
自立支援センター豊島寮 自立支援事業 地域生活継続支援事業 地域生活移行支援事業 巡回相談事業 ホームレス生活サポート事業	豊島区内
大泉障害者支援ホーム 施設入所支援事業 生活介護事業 短期入所事業 就労移行支援事業 就労継続支援B型事業	〒178-0061 練馬区大泉学園町 9-4-2 TEL : 03-3978-5581
東が丘荘 更生施設 通所・訪問事業 ステップハウス事業 宿泊所	目黒区内
目黒区東が丘障害福祉施設 目黒区立東が丘福祉工房 生活介護事業 目黒区立東が丘あじさいホーム 短期入所事業 福祉ホーム	〒152-0021 目黒区東が丘 1-21-15 工房 TEL : 03-3410-0778 ホーム TEL : 03-3410-6030
練馬区立関町福祉園 生活介護事業	〒177-0053 練馬区関町南 3-15-35 TEL : 03-3594-0217
三園福祉園 生活介護事業 重症心身障害児(者)通所事業	〒175-0091 板橋区三園 2-9-16 TEL : 03-5383-9587
田柄福祉園 生活介護事業	〒179-0073 練馬区田柄 3-14-9 TEL : 03-3577-2201

発行日 平成二十八年五月一日
 発行者 山口 桂造
 社会福祉法人 東京援護協会
 東京都千代田区鍛冶町一八八五
 新神田ビル2階
 電話 ○三三二五六一四七一

編纂後記
 新年度早々に、熊本では記録的な大地震が起こり、甚大な被害を受け、未だに余震が続き不安と不自由な生活をされている方々がたくさんおられます。我々福祉の現場においても、いつ起こるか予測の付かない災害時に何ができるのか、地域でどういった役割が担えるのか、等を日頃より考えておかななくてはと、改めて強く感じました。亡くなられた方々のご冥福と一日も早い復興をお祈り申し上げます。さて今回の東援だよりでは、新たに始まった「豊島寮」から50周年・30周年を迎えた「町田荘」「高島平福祉園」「関町福祉園」の報告と、まさに法人の歴史を感じる内容となりました。
 次回発行は28年10月です。



「3階から見える富士山」
 撮影：サルビア荘

